

施工手順書②

クロス・塗り壁・ペイント(扉)工事

注意事項

施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した cases に限ります。
※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。

①木工事

①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様

②クロス・塗り壁

①-3.インセット枠仕様

ペイント(扉)工事

(ステルス枠・インセット枠共通)

③扉・金物の取付

(ステルス枠・インセット枠共通)

③-1. 開き戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑩)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ・ミラノ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊)

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、引分け戸

⑩ファイブクイーンズ

⑩-1. スイング戸

⑪ソリスト

⑪-1. ローリング戸

⑫カーム

⑫-1. 片開き戸

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください

注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

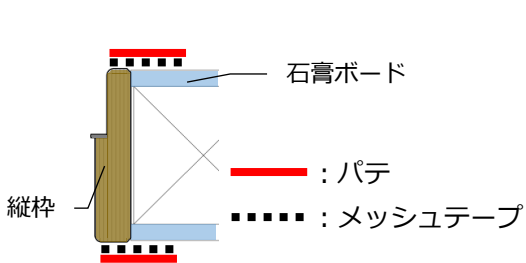
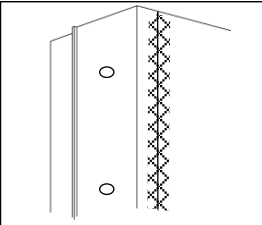
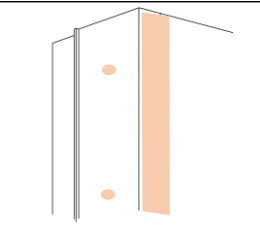
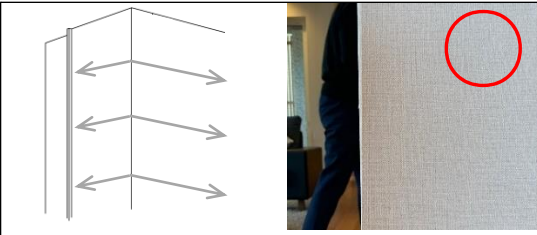
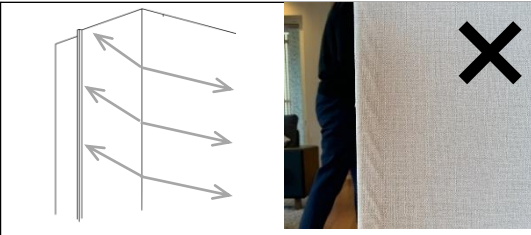
- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

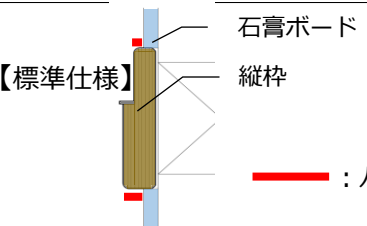
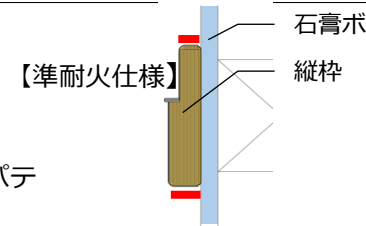
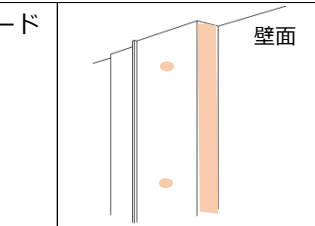
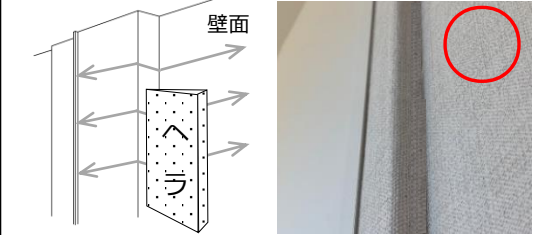
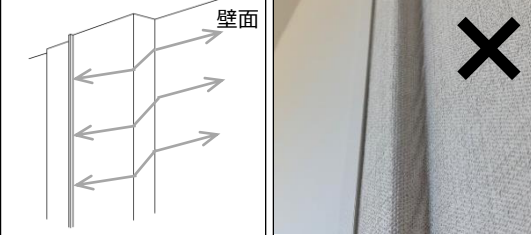
● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□ 下地枠・クロス施工時の注意点

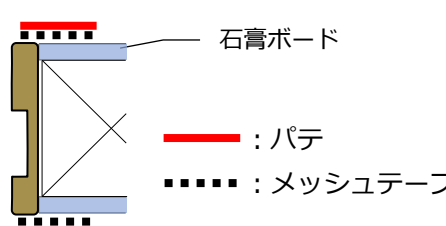
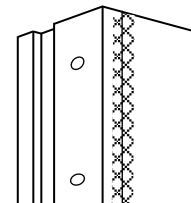
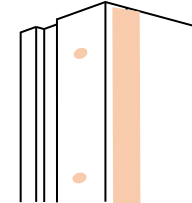
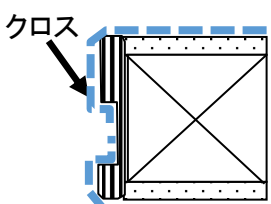
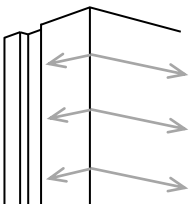
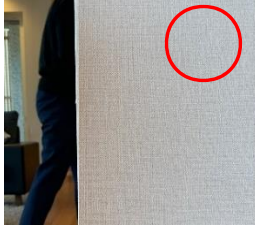
施工手順書2024/8改訂

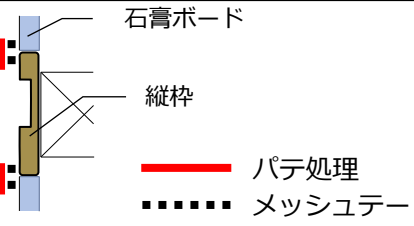
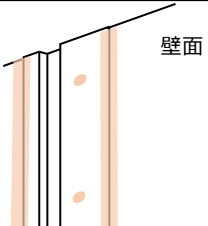
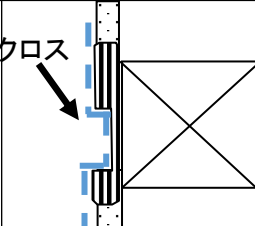
縦枠【袖壁納まりの場合】		ステルス枠専用	
<p>① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p>			
	<p>② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。</p>		
<p>ポイント</p>	<p>※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。 ※縦枠の木口面全体にパテを塗ってください。</p>		

縦枠【入隅壁納まりの場合】		ステルス枠専用	
<p>① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。 縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。</p>			
	<p>ポイント</p>	<p>ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る (木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る) ※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください</p> 	
	<p>枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る</p> 		

□ 下地枠・クロス施工時の注意点

施工手順書2024/8改訂



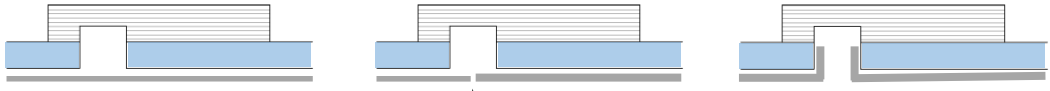
縦枠下地【袖壁納まりの場合】		インセット枠専用	
<p>① 縦枠下地と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p> <p>② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。</p>	 <p>石膏ボード</p> <p>パテ</p> <p>メッシュテープ</p>	 <p>ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る</p>	 <p>ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)</p>
	 <p>クロス</p> <p>下地のシャクリ部分までクロスを巻き込んでください。</p>	 <p>ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)</p>	 <p>下地のシャクリ部分までクロスを巻き込んでください。</p>
<p>ポイント</p> <p>※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。</p> <p>※縦枠下地の木口面全体にパテを塗ってください。</p>			





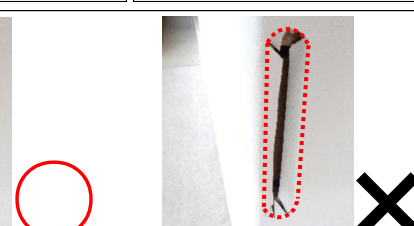
縦枠下地【入隅壁納まりの場合】		インセット枠専用	
<p>① 縦枠下地の入隅部は石膏ボードで挟む納まりとなります。</p> <p>縦枠下地と石膏ボードのジョイント部分にメッシュテープ、パテ処理をしてください。</p>	 <p>石膏ボード</p> <p>縦枠</p> <p>パテ処理</p> <p>メッシュテープ</p>	 <p>壁面</p> <p>ビス穴、及び縦枠下地と石膏ボードのジョイント部分にパテ処理をする</p>	 <p>クロス</p> <p>下地のシャクリ部分までクロスを巻き込む</p>
			<p>ビス穴、及び縦枠下地と石膏ボードのジョイント部分にパテ処理をする</p>

インセット枠の取付		インセット枠専用	
<p>① インセット枠はクロス仕上げ後の取付けを推奨。</p> <p>インセット枠の取付、調整方法は別冊「施工手順書①-3木工事インセット枠仕様」を参照してください。</p>	 <p>クロス仕上げ後のシャクリ部分にインセット枠をはめ込む</p>	 <p>同梱のMSビスで手動ドライバーで取付け固定する</p>	
			<p>同梱のMSビスで手動ドライバーで取付け固定する</p>

□ 下地枠・クロス施工時の注意点

施工手順書2024/8改訂

上枠		<共通>		
<p>① 上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。 ※天井高納まりの場合、標準設定の【天井ボード勝ち】納まりではジョイント部が発生しませんので不要です。 上レールが取付く場合の天井クロスはレール溝に巻き込み、上レールを取付けてください。</p>	 <p>天井高納まり 【天井ボード勝ち】標準納まり</p>	 <p>下がり壁納まり</p> <p>— : パテ ■ : メッシュテープ</p>		
	<p>クロスよれ等を防ぐため、【天井ボード勝ち】納まりを標準設定としています。</p>	<p>上枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。</p>		
	 <p>①レール溝をまたいでクロスを貼る</p> <p>②溝の中央にカッターで切れ目を入れる</p> <p>③クロスを溝に巻き込む</p>			
ポイント				

金物加工部分		<ステルス枠>		
<p>① 金物加工部分をまたいでクロスを貼り、切り込みを入れ、クロスを巻き込んで金物を取付けてください。</p>	 <p>金物加工部分をまたいでクロスを貼る</p>	 <p>金物加工部分のクロスに切り込みを入れ、クロスを巻き込んで金物を取付ける</p>		
	 <p>金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付ける</p>	 <p>金物加工部の縁に沿ってクロスを取り取らない</p>		
	<p>※金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付けると仕上がりがきれいです。</p>			
ポイント				

□ 下地枠・塗り壁施工時の注意点

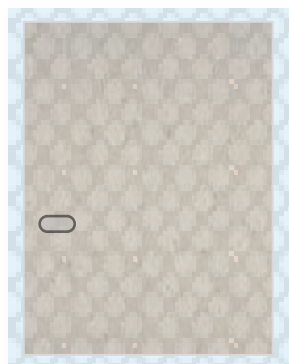
施工手順書2024/8改訂

塗り壁の施工例：縦枠（漆喰、弾性パテを使用の施工例）		＜ステルス枠＞	
<p>① 木工事完了後、枠にアク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼ってください。 ※コーナー見切材を使う場合は、メッシュテープを貼る前に取付ける。</p> <p>② アルミ調樹脂見切材、金物等に養生を行い、弾性パテを塗布・乾燥 → シーラー材を塗布・乾燥 → 漆喰を塗布・乾燥させてください。</p>	<p>石膏ボード</p> <p>縦枠</p> <p>— : 弾性パテ</p> <p>..... : メッシュテープ</p> <p>..... : アク止め</p>	<p>1</p> <p>アク止め材塗布・乾燥 (2度塗りを推奨)</p>	<p>2</p> <p>アク止め材を塗布・乾燥後、縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼る (写真はコーナー見切材を併用の場合)</p>
	<p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>シーラー材塗布・乾燥 (一度塗り)</p> <p>6</p> <p>金物等を養生し、弾性パテを塗布する(一度塗り)</p> <p>シーラー材を塗布・乾燥後、漆喰を塗る</p>	<p>ポイント</p> <p>※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。 但し、引き戸の下部見切り縁の寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。【下図参照】 ※コーナー見切材を使う場合は、コーナー見切材の端部にもメッシュテープを貼ってください。 ※金物が取付く箇所はコーナー見切材を切り欠いて取付けてください。(ヒンジ、ラッチ受け、錠受け金物を先につける)</p>	

塗り壁の施工例：その他（漆喰、弾性パテを使用の施工例）		＜ステルス枠＞	
<p>① 下がり壁納まり、天井の仕上げ材、壁付けの金物、引き戸の下部見切材については右表をご確認ください。</p>	<p>下がり壁納まり</p> <p>— : 弾性パテ</p> <p>..... : メッシュテープ</p> <p>..... : アク止め</p>	<p>天井高納まり</p> <p>クロス仕上げ ※塗り仕上げ不可</p>	<p>天井高納まりの場合は、天井の仕上げはクロス貼りとしてください</p>
	<p>壁付ガイド金物等</p> <p>— : スペース</p> <p>--- : 塗り厚2～3mm</p> <p>壁付の金物を取付ける場合、塗り壁の塗り厚分のスペース(合板等)を挟んで取付けてください</p>	<p>下部見切縁</p> <p>寸法</p> <p>--- : 塗り厚2～3mm</p> <p>引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください</p>	<p>ポイント</p> <p>※壁仕上げ面の塗り厚は2～3mmの設定です。 但し、引き戸の下部見切り縁のチリ寸法が2.5mmのため、はみ出さないよう注意して施工してください。 ※下がり壁の上枠下端面(上レールが取付く面)の塗り厚は1.5mmの設定です。</p>

建具同梱金物

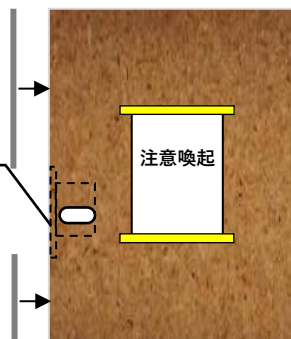
【片開き戸】



エアパッキン開封後



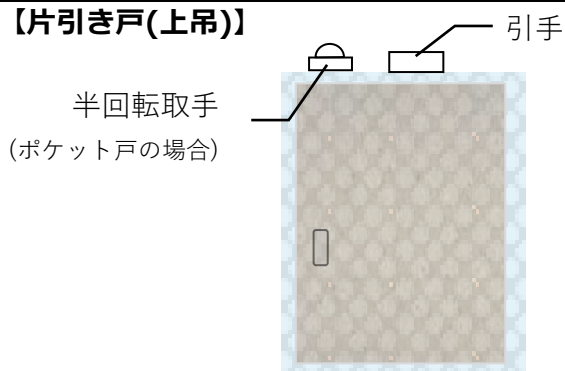
加工内に
ケース錠



樹脂見切り

注意喚起

【片引き戸(上吊)】

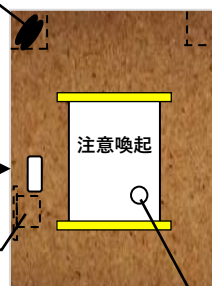


加工内に
化粧キャップ

エアパッキン開封後



加工内に鎌錠
(錠付きの場合)

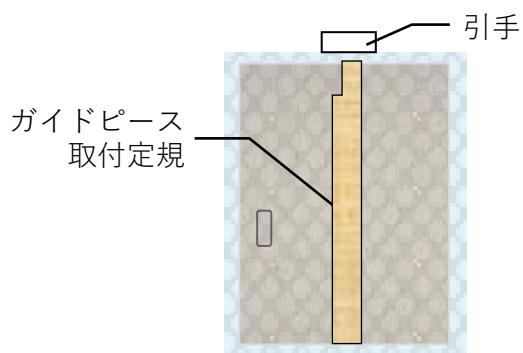


樹脂見切り

注意喚起

クリアバンポン

【2・3枚引込み戸(連動)/2・3枚引違い戸(連動)】

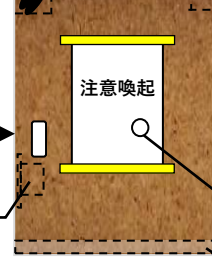


加工内に
化粧キャップ

エアパッキン開封後



加工内に鎌錠
(錠付きの場合)



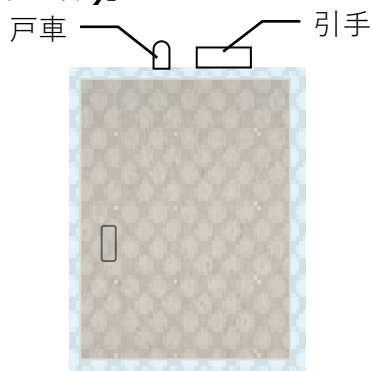
樹脂見切り

注意喚起

クリアバンポン

連動金物取付済

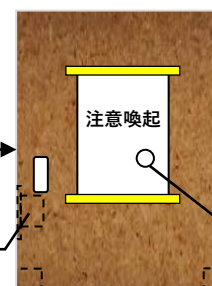
【片引き戸(床付レール)】



エアパッキン開封後



加工内に鎌錠
(錠付きの場合)



樹脂見切り

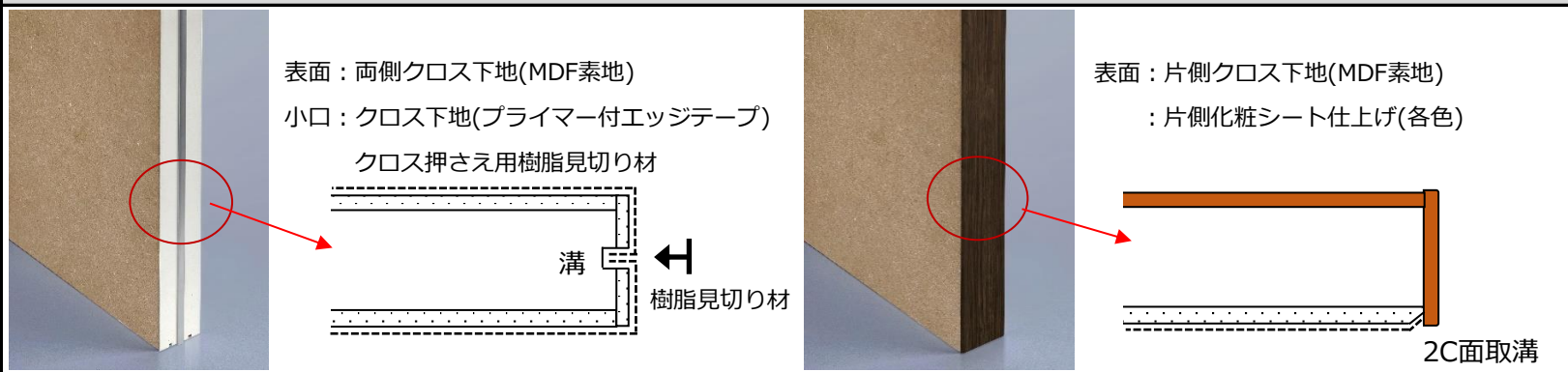
注意喚起

クリアバンポン

注意

※引手や戸車、クリアバンポン等はマスキングテープで貼っています。無くさないようご注意ください。

仕様について



クロスの貼り方

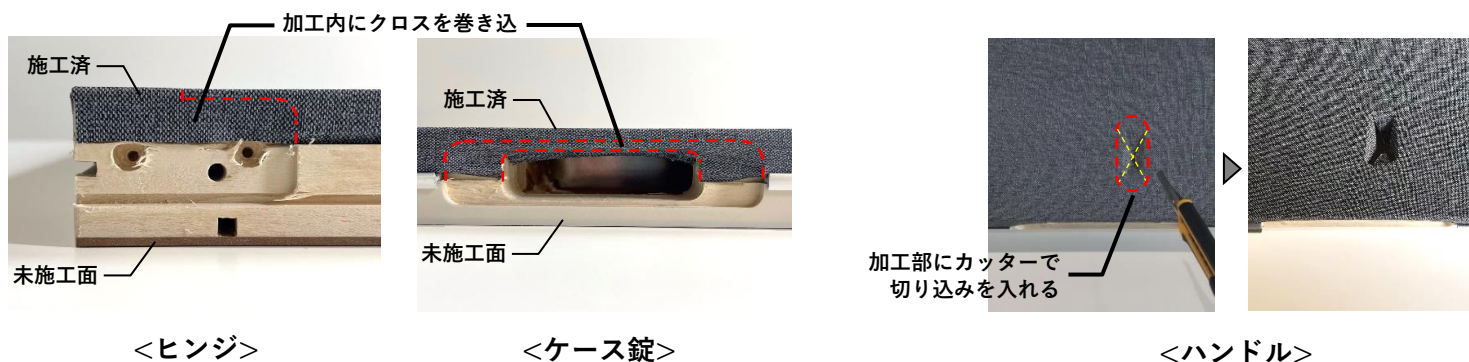
<p>【KF1型】</p> <p>①クロスは扉端部より4cmほど長くなるように貼ります。</p> <p>②小口に空気が入らないようにクロスをヘラで押さえ溝に差し込み、余分なクロスをカットします。</p> <p>③片側小口のクロス貼りの完成。</p> <p>④写真のように片側上(下)端部のクロスも小口と同じ手順で貼ります。</p> <p>⑤反対側も①～④の手順でクロスを貼り、クロスを巻き込んだ小口の溝に樹脂見切り材を差し込んで完成。</p> <p>※溝に差し込んだ樹脂見切りが緩い場合は、ゴム系の接着剤等を併用して取り付けてください。</p>	KF1型①	KF1型②	
	上(下)端 小口	小口	小口
	KF1型③	KF1型④	KF1型⑤
	上(下)端 小口	上(下)端 小口	小口
	KF7型①	KF7型②	
<p>【KF7型】</p> <p>①上(下)端部は上記KF1型と同様にクロスを貼ります。</p> <p>②長手方向のクロスの見切り方は、小口とクロス下地面材の突き付け部にある2C面取溝でクロスを押さえカットします。</p>	上(下)端 小口	↑ 2C面取溝で クロスを押さえる	

注意

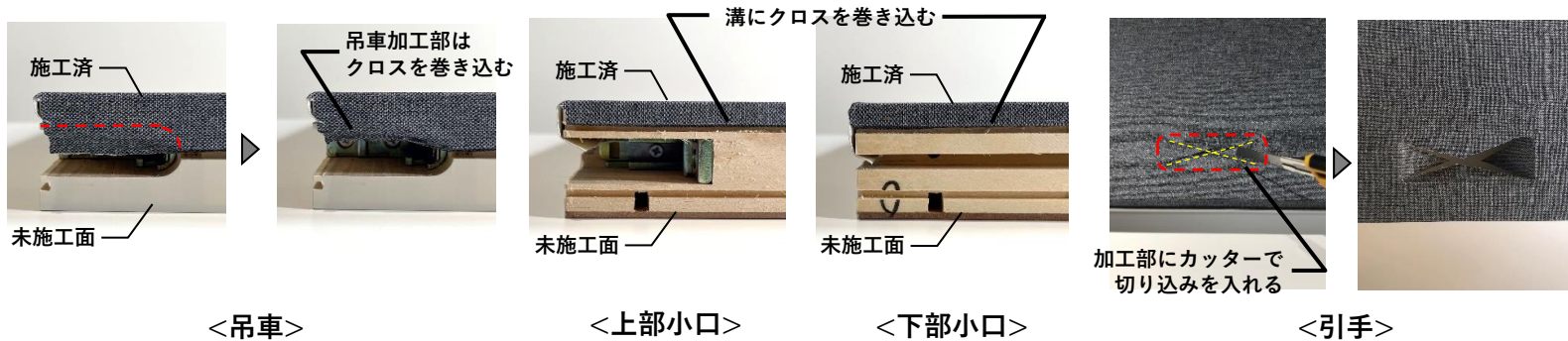
- ※クロスの厚みは0.5mm以下としてください。
- ※木粉が付いている場合は乾いたウエスでよく拭き取ってからクロスを貼ってください。
- ※貼りにくいクロスで小口や溝でクロス糊りが効きにくい場合は、扉の小口や溝・2C面取溝に捨て糊(プラゾール(ヤヨイ科学)原液等)を刷毛で薄く塗ってから貼ってください。
- ※クロス仕上げ後のキズ・汚れ・剥がれについては対象外となりますので、取り扱いにご注意ください

金物加工部のクロス貼り方

【片開き戸】



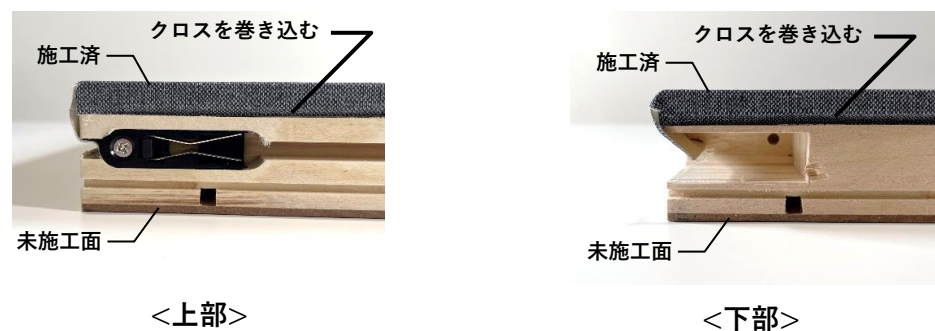
【片引き戸(上吊)】



【2・3枚引込み戸(連動)/2・3枚引違い戸(連動)】



【片引き戸(床付レール)】



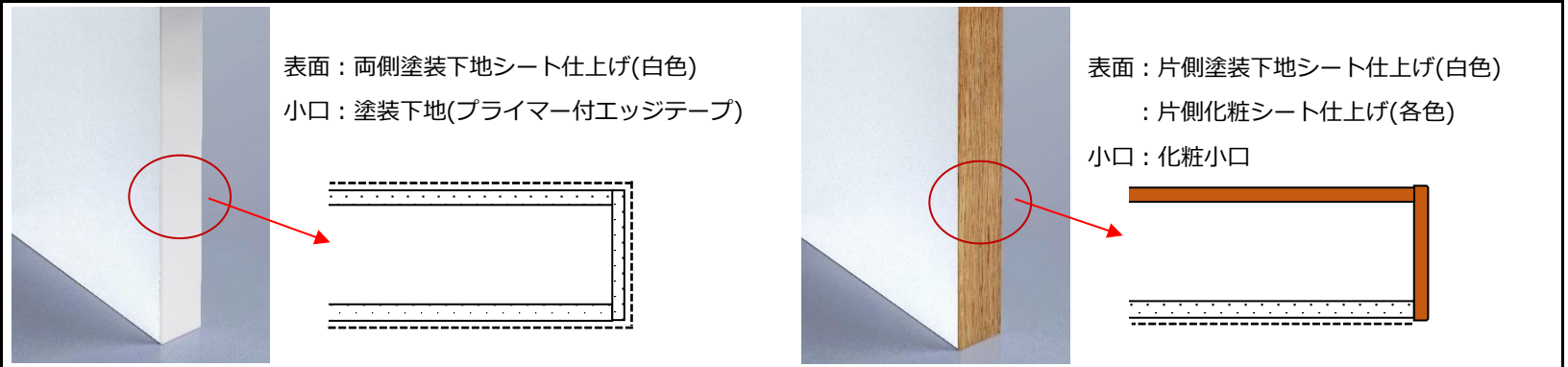
注意

※クロス[※]の厚みは0.5mm以下としてください。
 ※引手や戸車、クリアバンポン等の金物は扉にマスキングテープで貼っています。無くさないようご注意ください。

□ F/S エフエスシリーズ【扉・現場塗装(ペイント)仕様】

施工手順書2024/8改訂

仕様について



塗料の選択と塗装方法

塗料の選択

造膜型塗料をご使用ください。
また、右記載の【推奨塗料】以外の塗料をご検討の場合は、無償の面材サンプル(塗装下地)をお取り寄せいただき、試し塗りを行ってください。

造膜型塗料(表面に塗膜を造るタイプ) アクリル樹脂系塗料、ウレタン樹脂系塗料 水性塗料を推奨します	浸透性塗料(木材内部に浸透するタイプ) ステイン塗料 使用できません
<p>カラーペイント ※クリア塗料は使用できません。</p> <p>チョークボードペイント</p>	<p>ステイン塗料全般</p>

【推奨塗料】

- ・カラーワークス「HIP」
- ・友安製作所「ウォールペイント・マットウォール」
- ・カンペハピオ「マットペイント」
- ・ターナー色彩「チョークボードペイント」

※上記の推奨塗料は当社で試し塗り後、クロスカット試験に合格したものを挙げています。

塗装方法

①シーラーは不要です。塗装下地面に付着した埃や汚れを落とした後、直接塗装してください。

①表面材と裏面材の端部にマスキングテープで養生し、小口を塗装します。

②小口の塗装後、表面材を塗装します。

③一度目の塗装が完全に乾燥した後、2度目の塗装を①②の順で行います。

塗装方法①	塗装方法②	塗装方法③
		塗装は2度塗り

注意

- ※漆喰や珪藻土など左官塗りはできません。また、開閉に影響がある著しい盛り上げ塗装もできません。
- ※ローラー短毛タイプで塗装することを推奨します。
- ※塗装仕上げ後のキズ・汚れ・剥がれについては対象外となりますので、取り扱いにご注意ください。
- ※塗装仕上げの剥がれの原因となりますので、養生テープは使用しないでください。